

町小だより

令和3年
12月22日
No. 662
御免町小学校

休校中の学校で・・・

～「学ぶ」とはどういうことなのか～

校長 藤井 聡

2回目の休校中の今、校長室で、来週発行予定の学校だよりの巻頭言を書いています。子どもたちのいない学校は静まり返り、時間が止まったかのようです。出勤途中で見かけた他校の児童の笑顔が羨ましくもあります。主役のいない学校で、このまま休校が延長となり、冬休みを迎えることになるかもしれないという切なさや戦っています。それでも、職員室で時折鳴る電話にでた職員が、「はい、ありがとうございます。私たちも頑張ります。」などと応対する声にほっとします。学校を気遣ってくださる電話が時折来るのです。ありがたい。心に沁みます。

駆け抜けるようにして終わろうとしている2学期。皆様には様々なところでお世話になりました。ありがとうございました。皆様、どうか御自愛くださり、良い年をお迎えください。

11月26日（金）当校において、NIE 研究発表会を開催いたしました。2年間にわたる研究の成果を子どもたちの姿（授業公開）を通して、披露することができました。

2年間にわたる研究の目的は、子どもたちに「人の思いや生き方」を学ばせることです。当校の子どもたちは、素直で優しく、よく勉強もします。子ども同士のトラブルがないわけではありませんが、大事には至らず、気持ちよく学校生活を送っています。時々登校を渋る子はいますが、一旦学校に来てしまえば、元気一杯、笑顔で生活しています。完全不登校の子がいないのは、「学校が楽しい」という表れではないかと考えています。

そんな子どもたちに、生涯にわたり、生きて働く『真の学力』を身に付けさせたいと願うのは、欲張りなことではないはずです。『真の学力』は、知識が豊富なことだけではありません。知識と知識を結びつけて考え、新たな答えを導き出すことや人として自分が今何を成すべきかを考えることができることも「学力」です。そもそも学習に向かう力（学習意欲）が身に付かなければ、どんなに時間を費やそうと、知識も技能も自分のものにはなりません。ですから、学習意欲も『真の学力』に含まれます。また、授業や活動で得た知識や技能を実際に生活の場で生かそう、活用しようとすることも重要です。そして、「学んだこと」を用いて、その子自身が達成感や幸福感を得られるようにすることまでをねらっていきたいのです。そんな考えに立った時、学校で提供する「学び」に「人の思いや生き方」を織り交ぜることができたら、それは子どもたちの人生に有用で貴重な「学び」となり、『真の学び』につながると考えたのです。

NIEの実践を通して、子どもたちは変わりました。そして、私たちは、「学ぶ」とはどういうことなのか、あらためて考えさせられました。2回目の休校となったこの2日間、私は子どもたちの成長に確かな手ごたえを感じつつ、静かに思いを巡らせています。

追伸：12月8日（水）1回目の休校となる前日、PCR検査の対象となったお子さんのお宅に電話をさせていただきましたが、その電話は深夜となってしまいました。誠に申し訳ありませんでした。職員の帰宅は翌日となり、帰宅後に時計を見ると午前1時を回っていました。職員も頑張りました。その頑張りに免じて、お許しいただければ幸いです。